

(昆虫類)

対象事業実施区域を含む周辺市町村における重要な種（昆虫類）として、表 4-2-1-67 に示す 154 種の生息情報が得られている。

表 4-2-1-67(1) 対象事業実施区域及びその周囲で生息が確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準							
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	カゲロウ	ヒラタカゲロウ	オビカゲロウ							DD	
2	トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ						NT	VU	
3			ホソミイトトンボ							EN	CR+EN
4		アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ							NT	
5		カワトンボ	ミヤマカワトンボ							NT	
6			アオハダトンボ						NT	VU	
7		サナエトンボ	キイロサナエ						NT	CR+EN	
8			ヒメサナエ							VU	
9			オジロサナエ								NT
10			ウチワヤンマ							NT	
11		ヤンマ	アオヤンマ						NT		
12			サラサヤンマ								CR+EN
13			ミルンヤンマ								NT
14			マダラヤンマ							NT	NT
15			マルタンヤンマ								VU
16			クロスジギンヤンマ								NT
17			ギンヤンマ								NT
18			カトリヤンマ								VU
19		エゾトンボ	ハネビロエゾトンボ						VU	VU	
20		カワゲラ	ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ						NT	
21		アミメカワゲラ	フライソニアミメカワゲラ					NT	CR+EN		
22	バッタ	ヒバリモドキ	ハマスズ						CR+EN		
23	カメムシ	セミ	チツチゼミ						N		
24		コオイムシ	コオイムシ						NT		
25			タガメ						VU	EX	
26		タイコウチ	タイコウチ							NT	
27		キンカメムシ	アカスジキンカメムシ							N	
28		コウチュウ	ナガヒラタムシ	ヒメナガヒラタムシ						DD	
29				ナガヒラタムシ							DD
30			カワラゴミムシ	カワラゴミムシ							NT
31			ハンミョウ	カワラハンミョウ						EN	CR+EN
32			オサムシ	チュウブオオオサムシ							NT
33				イナオサムシ							
34	オンタケクロナガオサムシ										NT
35	サンブククロナガオサムシ										NT
36	アカイシホソヒメクロオサムシ										NT
37	ミヤマヒサゴゴミムシ										NT
38	シンシュウナガゴミムシ										NT
39	トダイオオナガゴミムシ										VU
40	マヌモトナガゴミムシ										NT
41	キソコマナガゴミムシ										NT
42	スルガナガゴミムシ								NT		
43	エナオオズナガゴミムシ								VU		
44	キソナガゴミムシ								VU		
45	ミヤママルガタゴミムシ								VU		
46	アシグロツヤゴモクムシ								NT		
47	リュウトウツヤゴモクムシ								VU		
48		キソツヤゴモクムシ							VU		
49	ホソクビゴミムシ	ミイデラゴミムシ							VU		
50	ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ						NT	NT		
51		ゲンゴロウ						VU	NT		
52	ミズスマシ	ミズスマシ						VU	NT		
53	ガムシ	コガムシ							DD		
54		ガムシ						NT	NT		
55	シデムシ	ヤマトモンシデムシ						NT	VU		
56		ヒメモンシデムシ							NT		
57		オニヒラタシデムシ							VU		
58	クシヒゲムシ	クチキクシヒゲムシ							VU		
59	クワガタムシ	オオルリクワガタ							NT		
60		ホソツヤルリクワガタ							VU		
61		ヒメオオクワガタ								NT	
62		ヒラタクワガタ								CR+EN	
63	ムネアカセンチコガネ	ムネアカセンチコガネ							NT		
64	アカマダラセンチコガネ	アカマダラセンチコガネ							CR+EN		
65	コガネムシ	ゴホンダイコクコガネ							VU		
66		オオチャイロハナムグリ						NT	CR+EN		
67		クロカナブン								VU	
68		アカマダラハナムグリ							DD	VU	
69		コカブトムシ							VU		

表 4-2-1-67(2) 対象事業実施区域及びその周囲で生息が確認された重要な昆虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
70	コウチュウ	タマムシ	タマムシ								VU		
71			トゲフタオタマムシ								CR+EN		
72		コメツキムシ	フタキボシカネコメツキ								NT		
73		ホタル	ゲンジボタル									N	
74			ヒメボタル									NT	
75		ジョウカイボン	カタキンイロジョウカイ									VU	
76			キンイロジョウカイ									VU	
77		ヒラタムシ	ルリヒラタムシ									NT	
78		オオキスイムシ	ミドリオオキスイ									NT	
79		オオキノコムシ	オオキノコムシ									NT	
80		テントウムシ	ハラグロオオテントウ									VU	
81			ココノホシテントウ										VU
82			ダイモンテントウ										VU
83			ヤマトアザミテントウ										NT
84			ルイヨウマダラテントウ										VU
85			ハナノミ	ヤクハナノミ									VU
86			クビナガムシ	カクズクビナガムシ									NT
87			カミキリモドキ	ミヤマカミキリモドキ									VU
88			アカハネムシ	ムネアカクロアカハネムシ									NT
89			カミキリムシ	クブカマルクビカミキリ									NT
90			オトメクビアカハナカミキリ									VU	
91			アラメハナカミキリ									NT	
92			ヨツボシカミキリ									VU	
93			ホソムネシラホシヒゲナガコバネカミキリ									EN	
94			ミドリヒメスギカミキリ									VU	
95			フタスジゴマフカミキリ									VU	
96		ハチ	アリ	エゾアカヤマアリ								VU	
97			スズメバチ	ヤマトアシナガバチ									DD
98				モンズズメバチ									DD
99				チャイロスズメバチ									DD
100				キオビクロスズメバチ									DD
101		ハエ		アミカ	キイロフタマダアミカ								DD
102			アミカモドキ	ニホンアミカモドキ								VU	
103		トビケラ	キタガミトビケラ	キタガミトビケラ								N	
104		チョウ	ツトガ	モリオカツトガ								NT	
105	ホシチャバネセセリ											EN	
106	セセリチョウ		タカネキマダラセセリ					指				VU	
107			アカセセリ									EN	
108			ギンイチモンジセセリ									NT	
109			ミヤマチャバネセセリ									VU	
110			キマダラセセリ									NT	
111			チャマダラセセリ									EN	
112			スジグロチャバネセセリ									NT	
113			アゲハチョウ	ギフチョウ									VU
114				ヒメギフチョウ									NT
115			シロチョウ	クモマツマキチョウ									NT
116	ミヤマシロチョウ								指			VU	
117	ツマグロキチョウ											EN	
118	ヤマキチョウ											EN	
119	ヒメシロチョウ											EN	
120	シジミチョウ		ウスイロオナガシジミ									CR	
121			キリシマミドリシジミ									N	
122			ヒサツミドリシジミ									NT	
123			ウラジロミドリシジミ									NT	
124			クロミドリシジミ									NT	
125			ウラナミアカシジミ									NT	
126			ミヤマシジミ									EN	
127			アサマシジミ									EN	
128			ゴマシジミ									CR	
129			クロシジミ									EN	
130			ヒメシジミ									NT	
131			ムモンアカシジミ									NT	
132			キマダラルリツバメ									NT	
133			ベニモンカラスシジミ									NT	
134			クロツバメシジミ									NT	
135	タテハチョウ		コヒオドシ									NT	
136			ウラギンスジヒョウモン									VU	
137			ヒョウモンチョウ									VU	
138			オオウラギンヒョウモン									CR	
139		オオイチモンジ									VU		
140		コヒョウモンモドキ									EN		
141		ヒョウモンモドキ									CR		
142		オオムラサキ									NT		
143	ジャノメチョウ	クモマベニヒカゲ									NT		
144		ベニヒカゲ									NT		
145		キマダラモドキ									NT		
146		クロヒカゲモドキ									EN		
147		オオヒカゲ									VU		
148		ウラナミジャノメ									VU		
149	ヤママユガ	シンジュサン									NT		
150	スズメガ	ヒメスズメ									NT		
151	ヒトリガ	マエアカヒトリ									NT		
152	ヤガ	キタアツバ									NT		
153		コシロシタバ									NT		
154		ミヨタトラヨトウ										CR	
154												EX	
計	10目	57科	154種	0種	0種	0種	4種	0種	64種	143種			

注1. 分類、配列などは原則として、「日本産昆虫総目録」（平成元年、九州大学農学部昆虫学研究室）に準拠した。

注2. 文献は以下のとおりである。

松川町史第二巻松川町の自然（2010、松川町史第二巻編纂専門委員会・松川町資料館町史編纂事務局）

喬木村誌 上巻（1979、喬木村誌編纂委員会）

喬木村の生きもの（2008、喬木村役場）

ふるさと飯田の自然（1977、飯田市教育委員会）

清内路村誌（1982、清内路村誌編纂委員会）

下伊那誌 生物編（2001、下伊那教育会生物委員会）

南木曾町誌 資料編（1982、南木曾町誌編さん委員会）

（仮称）木曾川右岸道路（南部ルート）建設事業環境影響評価書

（2008、長野県・上松町・南木曾町・大桑村）

長野県版レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～動物編（2004、長野県）

信州の希少生物と絶滅危惧種（1997、長野県自然教育研究会）

長野県の貴重昆虫（1983、長野県生活環境部環境自然保護課）

信州の蝶（1996、浜栄一・栗田貞多男・田下昌志）

長野県産チョウ類動態図鑑（1999、信州昆虫学会）

長野県のトンボ（1977、信州昆虫学会）

河川水辺の国勢調査（天竜川）

第2回自然環境保全基礎調査 長野県動植物分布図（昭和56年、環境庁）

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

③「長野県文化財保護条例」（昭和50年、長野県条例第44号）

県天：県指定天然記念物

④「長野県希少野生動植物保護条例」（平成15年、長野県条例第32号）

指：指定希少野生動植物、特：特別指定希少野生動植物

⑤「文化財保護条例」（大鹿村昭和47年条例第21号、松川町昭和43年条例第18号、豊丘村昭和49年条例第17

号、喬木村昭和45年条例第19号、高森町昭和44年条例第25号、飯田市昭和41年条例第33号、阿智村昭和42年条例第11号、南木曾町昭和51年条例第12号）

市町村：市町村指定天然記念物

⑥「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）および「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑦「長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～動物編」（平成16年、長野県）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：留意種

(魚 類)

対象事業実施区域を含む周辺市町村における重要な種（魚類）として、表 4-2-1-68 に示す 13 種の生息情報が得られている。

表 4-2-1-68 対象事業実施区域及びその周囲で生息が確認された重要な魚類

No.	目名	科名	種名	選定基準									
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類							VU	VU		
2	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ							EN	EW		
3	コイ	コイ	ヤリタナゴ							NT	CR		
4			ホンモロコ							(CR)			
5			ドジョウ								DD		
6			アジメドジョウ								VU	NT	
7			ナマズ	ナマズ	アカザ							VU	NT
8			サケ	サケ	アユ								EW
9	ヤマトイワナ										NT		
10	ニッコウイワナ										(DD)	(NT)	
-	イワナ類											(NT)	
11	サツキマス (アマゴ)											NT	NT
12	ダツ	メダカ	メダカ南日本集団							VU	EN		
13	カサゴ	カジカ	カジカ							NT	NT		
計	7目	9科	13種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	11種	12種		

注1. 分類、配列などは原則として、「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（平成24年、公益財団法人リバーフロント研究所）に準拠した。

注2. 文献は以下のとおりである。

- 松川町史第二巻松川町の自然（2010、松川町史第二巻編纂専門委員会・松川町資料館町史編纂事務局）
- 豊丘村誌 上巻（1975、豊丘村誌編纂委員会）
- 喬木村誌 上巻（1979、喬木村誌編纂委員会）
- 喬木村の生きもの（2008、喬木村役場）
- ふるさと飯田の自然（1977、飯田市教育委員会）
- 清内路村誌（1982、清内路村誌編纂委員会）
- 南木曾町誌 資料編（1982、南木曾町誌編さん委員会）
- （仮称）木曾川右岸道路（南部ルート）建設事業環境影響評価書
（2008、長野県・上松町・南木曾町・大桑村）
- 長野県版レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～動物編（2004、長野県）
- 信州の希少生物と絶滅危惧種（1997、長野県自然教育研究会）
- 河川水辺の国勢調査（天竜川）

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。なお、国内外来種に該当するものは（）で示したほか、イワナ類はヤマトイワナのランクを（）内に示した。

- ①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ③「長野県文化財保護条例」（昭和50年、長野県条例第44号）
県天：県指定天然記念物
- ④「長野県希少野生動植物保護条例」（平成15年、長野県条例第32号）
指：指定希少野生動植物、特：特別指定希少野生動植物
- ⑤「文化財保護条例」（大鹿村昭和47年条例第21号、松川町昭和43年条例第18号、豊丘村昭和49年条例第17号、喬木村昭和45年条例第19号、高森町昭和44年条例第25号、飯田市昭和41年条例第33号、阿智村昭和42年条例第11号、南木曾町昭和51年条例第12号）
市町村：市町村指定天然記念物
- ⑥「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）および「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑦「長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～動物編」（平成16年、長野県）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：留意種

(底生動物)

対象事業実施区域を含む周辺市町村における重要な種（底生動物）として、表 4-2-1-69 に示す 42 種の生息情報が得られている。

表 4-2-1-69 対象事業実施区域及びその周囲で生息が確認された重要な底生動物

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	選定基準																	
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦											
1	軟体動物	腹足	原始紐舌	タニシ	マルタニシ							VU	NT										
2					オオタニシ									NT									
3			二枚貝	基眼		モノアラガイ								NT	NT								
4						ヒラマキガイ									DD								
5		イシガイ				カワシンジュガイ							VU	VU									
6						イシガイ									NT	N							
7			マルスダレガイ					ヤマトシジミ							NT								
8								マシジミ									VU						
9	節足動物	昆虫	カゲロウ	ヒラタカゲロウ	オビカゲロウ								DD										
10					トンボ	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ								EN	CR+EN							
11							イトトンボ										VU						
12					カワトンボ			モートンイトトンボ								NT							
13								ミヤマカワトンボ											NT				
14								ヤンマ			アオハダトンボ								NT	VU			
15											アオヤンマ										NT		
16											マダラヤンマ										NT	NT	
17											マルタンヤンマ											VU	
18											クロスジギンヤンマ											NT	
19											ギンヤンマ											NT	
20											カトリヤンマ												VU
21											サラサヤンマ												CR+EN
22					ミルンヤンマ												NT						
23					サナエトンボ			キイロサナエ									NT	CR+EN					
24								ウチワヤンマ											NT				
25								オジロサナエ											NT				
26								エゾトンボ	ハネビロエゾトンボ										VU	VU			
27					カワゲラ			ヒロムネカワゲラ									NT						
28								アミメカワゲラ	フライソニアミメカワゲラ									NT	CR+EN				
29					カメムシ			コオイムシ									NT						
30								タガメ										VU	EX				
31								タイコウチ	タイコウチ											NT			
32					トビケラ			ナガレトビケラ	オオナガレトビケラ								NT	NT					
33								キタガミトビケラ											N				
34					ハエ			アミカ	シマシマヒメアミカ									DD					
35								アミカモドキ	ニホンアミカモドキ										VU	NT			
36					コウチュウ			ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ								NT	NT					
37								ゲンゴロウ											VU	NT			
38								ミズスマシ			ミズスマシ									VU	NT		
39											コオナガミズスマシ											VU	
40								ガムシ			ガムシ									NT	NT		
41											シジミガムシ											EN	
42					ホタル				ゲンジボタル									N					
計					2門	3綱	11目	25科	42種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	26種	33種						

注1. 分類、配列などは原則として、「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（平成24年、公益財団法人リバーフロント研究所）に準拠した。

注2. 文献は以下のとおりである。

- 松川町史第二巻松川町の自然（2010、松川町史第二巻編纂専門委員会・松川町資料館町史編纂事務局）
- 喬木村誌 上巻（1979、喬木村誌編纂委員会）
- 喬木村の生きもの（2008、喬木村役場）
- ふるさと飯田の自然（1977、飯田市教育委員会）
- 清内路村誌（1982、清内路村誌編纂委員会）
- 下伊那誌 生物編（2001、下伊那教育会生物委員会）
- 南木曾町誌 資料編（1982、南木曾町誌編さん委員会）
- （仮称）木曾川右岸道路（南部ルート）建設事業環境影響評価書
（2008、長野県・上松町・南木曾町・大桑村）
- 長野県版レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～動物編（2004、長野県）
- 信州の希少生物と絶滅危惧種（1997、長野県自然教育研究会）
- 長野県の貴重昆虫（1983、長野県生活環境部環境自然保護課）
- 長野県のトンボ（1977、信州昆虫学会）
- 河川水辺の国勢調査（天竜川）

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

- ③「長野県文化財保護条例」（昭和50年、長野県条例第44号）
 県天：県指定天然記念物
- ④「長野県希少野生動植物保護条例」（平成15年、長野県条例第32号）
 指：指定希少野生動植物、特：特別指定希少野生動植物
- ⑤「文化財保護条例」（大鹿村昭和47年条例第21号、松川町昭和43年条例第18号、豊丘村昭和49年条例第17号、喬木村昭和45年条例第19号、高森町昭和44年条例第25号、飯田市昭和41年条例第33号、阿智村昭和42年条例第11号、南木曾町昭和51年条例第12号）
 市町村：市町村指定天然記念物
- ⑥「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）および「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
 VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑦「長野県レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～動物編」（平成16年、長野県）
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
 VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：留意種

2) 植 物

ア. 植物相及び植生の状況

対象事業実施区域を含む周辺市町村における植物相は、既存文献資料において 177 科 3194 種が確認されている。

資料：大鹿村誌（1984、大鹿村誌編纂委員会）

松川町史第二巻松川町の自然（2010、松川町史第二巻編纂専門委員会・松川町資料館町史編纂事務局）

豊丘村誌 上巻（1975、豊丘村誌編纂委員会）

高森町史（1972、高森町史編纂委員会）

喬木村誌 上巻（1979、喬木村誌編纂委員会）

喬木村の生きもの（2008、喬木村役場）

ふるさと飯田の自然（1977、飯田市教育委員会）

阿智村誌（1984、阿智村誌編集委員会）

清内路村誌（1982、清内路村誌編纂委員会）

下伊那誌 生物編（2001、下伊那教育会生物委員会）

南木曾町誌 資料編（1982、南木曾町誌編さん委員会）

（仮称）木曾川右岸道路（南部ルート）建設事業環境影響評価書

（2008、長野県・上松町・南木曾町・大桑村）

長野県版レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～維管束植物編（2002、長野県）

信州の希少生物と絶滅危惧種（1997、長野県自然教育研究会）

国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑－関東・中部（山岳）編－（1982、環境庁）

長野県植物誌（1997、長野県植物誌編纂委員会）

河川水辺の国勢調査（天竜川）

長野県の植生は、天竜川や千曲川下流の低地からアルプスの山頂まで標高差は約 3,000m に及び、地形・気候・地質などの自然環境や人為干渉に対応して、多様な植生が発達している。

年平均気温が約 12℃以上の伊那盆地及び木曾谷の南部、天竜川と木曾川を挟む狭い地域は照葉樹林帯に属し、アラカシ・シラカシ・ヤブツバキ等の暖地性の植物が分布している。照葉樹林帯に続く夏緑広葉樹林帯のうち、標高 1,000m 前後までの地域は、主要河川沿いに広がる盆地や谷の大部分が含まれ、平坦部は市街地・住宅地・耕作地が広い面積を占め、周囲の山腹斜面はアカマツ・カラマツ・スギ・ヒノキ等の植林やクリ・コナラ・クヌギ等の雑木林が広がる。夏緑広葉樹林帯の上部は、ブナ・ミズナラ・カエデ・サクラ類等で構成される。さらにその上部は亜高山針葉樹林帯となり、シラビソ・トウヒ等の樹種で構成される。下限の標高は県南部の赤石山地では 1,800m 前後、北部では 1,500m 前後となる。標高 2,500m から 2,700m では高木限界となり、ハイマツ群落に移行する。そのハイマツ群落の間隙を縫いながら、雪田植生や高山荒原植生などが発達している。

対象事業実施区域及びその周囲の植生は、1) 赤石山地周辺の地域、2) 天竜川を挟む伊那山地周辺の地域及び恵那山地周辺の地域、3) 天竜川を含む伊那盆地周辺の地域の 3 つに区分することができる。

1) 赤石山地周辺の地域は、高山帯及び亜高山帯にあたり、「シラビソ・オオシラビソ群集」、「コメツガ群落」等の自然植生を主体とし、尾根部等に「高山低木群落」等がみられる植生となっている。2) 伊那山地周辺の地域及び恵那山地周辺の地域は、「クリーミズナラ群落」、「カラマツ植林」及び「スギ・ヒノキ・サワラ植林」を主体とし、一部に「伐跡群落」がみられる植生となっている。伊那山地の小渋川や青木川沿いでは「水田雑草群落」や「畑地雑

草群落」がみられ、恵那山地の蘭川沿いでは「緑の多い住宅地」がみられる。3) 天竜川を含む伊那盆地周辺の地域は、自然植生はほとんど見られず、「水田雑草群落」、「落葉果樹園」及び「市街地」を主体とする植生となっている。現存植生図を図 4-2-1-21 に示す。

イ. 重要な種及び群落の状況

対象事業実施区域を含む周辺市町村における重要な種として、既存文献資料において 115 科 954 種の生息情報が得られている。対象事業実施区域及びその周囲の天然記念物等の指定状況は表 4-2-1-70 に示すとおりであり、国指定 1 件、県指定 4 件、市町村指定 28 件の計 33 件の天然記念物が存在する。

対象事業実施区域及びその周囲の巨樹・巨木林の存在状況は表 4-2-1-71 に示すとおりであり、55 の巨樹・巨木林が存在する。

対象事業実施区域及びその周囲の特定植物群落の状況は表 4-2-1-72 に示すとおりであり、7 の特定植物群落が存在する。重要な植物等の分布図を図 4-2-1-22 に示す。

表 4-2-1-70(1) 対象事業実施区域及びその周囲の天然記念物（植物）

指定	名称	所在地	指定年月日
国指定	小黒川のミズナラ	阿智村清内路 1158-2	平成 8 年 9 月 4 日
県指定	長姫のエドヒガン	飯田市追手町 2-655-7	昭和 42 年 5 月 22 日
県指定	風越山のベニマンサク自生地	飯田市上飯田 6998-口ほか	昭和 43 年 5 月 16 日
県指定	下市田のヒイラギ	高森町下市田流田 1401	昭和 37 年 7 月 12 日
県指定	妻籠のギンモクセイ	南木曾町吾妻 597	昭和 43 年 3 月 21 日
村指定	桜（山桜）	大鹿村大河原	平成 14 年 7 月 1 日
村指定	ひめまつはだ	大鹿村大河原下市場	昭和 50 年 11 月 3 日
村指定	夜泣き松	大鹿村鹿塩河合	昭和 50 年 11 月 3 日
村指定	トチノキ	豊丘村鬼面山	平成 3 年 5 月 17 日
村指定	コブシの群生林	豊丘村野田平	昭和 60 年 4 月 16 日
村指定	ミヤマトサミズキ	豊丘村	平成 1 年 4 月 13 日
村指定	笹見平のしだれ桜（笹見平観音桜）	豊丘村河野 5242	平成 15 年 9 月 29 日
村指定	ツツザキ（クダザキ）ヤマジノギク	豊丘村	昭和 57 年 12 月 15 日
町指定	高森南小学校のソメイヨシノ	高森町下市田 2228	平成 18 年 3 月 7 日
町指定	光明寺のクロマツ	高森町山吹 8382-1	昭和 59 年 4 月 1 日
市指定	鼎一色の大杉	飯田市鼎一色 15	昭和 60 年 6 月 20 日
市指定	愛宕神社の清秀桜	飯田市愛宕町 2781	昭和 48 年 12 月 25 日
市指定	桜丸の蚊母樹	飯田市追手町 2-678	昭和 46 年 3 月 15 日
市指定	黄梅院の紅しだれ桜	飯田市江戸町 3-251	平成 12 年 11 月 22 日
市指定	阿弥陀寺のシダレザクラ	飯田市丸山町 2-6728	平成 2 年 1 月 17 日
市指定	浅間塚の一本杉	飯田市上郷黒田 4233	平成 14 年 7 月 12 日
市指定	風越山山頂ブナ林・ミズナラ・イワウチワ等自生地及び花崗岩露頭	飯田市上飯田 風越山山頂	平成 15 年 12 月 25 日
市指定	正永寺原の公孫樹	飯田市上飯田 1499	昭和 47 年 5 月 11 日
市指定	野底山次郎坊のチョウセンゴヨウ	飯田市上郷黒田 3842	平成 9 年 6 月 18 日
市指定	羽場の大柵	飯田市羽場町 3-726	昭和 43 年 11 月 19 日
市指定	水佐代獅子塚のエドヒガン	飯田市松尾水城 3457	平成 12 年 11 月 22 日
市指定	丸山の早生赤梨	飯田市滝の沢 6994	平成 21 年 3 月 23 日
市指定	麻績の里舞台桜	飯田市座光寺 2535	平成 23 年 3 月 22 日

表 4-2-1-70 (2) 対象事業実施区域及びその周囲の天然記念物 (植物)

指定	名称	所在地	指定年月日
町指定	和合の枝垂梅	南木曾町読書 3389	昭和 42 年 10 月 25 日
町指定	天白のつつじ群落	南木曾町読書 2937-37	昭和 50 年 5 月 22 日
町指定	一石柵の枝垂桜	南木曾町吾妻 1589	昭和 50 年 5 月 22 日

資料：「文化財情報」(平成 25 年 6 月現在、長野県教育委員会ホームページ)

「信州の文化財」(平成 25 年 6 月現在、(財)八十二文化財団ホームページ)

「信州 Live on」(平成 25 年 6 月現在、信濃毎日新聞社メディア局ホームページ)

表 4-2-1-71 (1) 対象事業実施区域及びその周囲の巨樹・巨木林

番号	所在地	推定樹齢 (年)	樹種名	幹周 (cm)	樹高 (m)	通称・呼称
20417006	大鹿村 河合	伝承 640	アカマツ	460	15	夜泣き松
20417007	大鹿村 松平神社	200~299	スギ	490	35	
			ケヤキ	310	30	
20417008	大鹿村 学校	100~199	ケヤキ	275	30	
			カツラ	327	26	
			カツラ	350	26	
20417009	大鹿村 大磧神社	100~199	カツラ	275	25	
20417009	大鹿村 大磧神社	100~199	エドヒガン	350	12	
20417010	大鹿村 大磧神社	200~299	スギ	400	36	
			ケヤキ	297	23	
20417011	大鹿村 弾正林	不明	ツガ	330	24	
			アカマツ	338	23	
			アカマツ	325	23	
			アカマツ	280	28	
20417012	大鹿村 福德寺	100~199	イチョウ	370	36	
20417013	大鹿村 薬師堂	100~199	イチョウ	320	32	
20417014	大鹿村 中洞上	100~199	アカマツ	305	15	天神様
20402001	松川町南方 神護原神社	不明	スギ	350	30	
			スギ	360	30	
20402002	松川町古町北部	不明	カヤ	410	20	
20402003	松川町古町南部 八幡神社	不明	スギ	330	30	
20416001	豊丘村 大宮神社	300 以上	スギ	465	34	
			エゾエノキ	315	16	
			エゾエノキ	305	17	
20416002	豊丘村 田村諏訪社	300 以上	スギ	345	29	
			スギ	330	27	
20416003	豊丘村 熊野神社	300 以上	スギ	430	38	
			スギ	433	33	
			スギ	480	35	
			スギ	370	30	
			イチョウ	300	28	
20416004	豊丘村 伴野神社	300 以上	スギ	350	28	
			スギ	340	32	
20416005	豊丘村 小野神社	200~299	スギ	305	37	
20416006	豊丘村 壬生沢諏訪社	300 以上	エドヒガン	320	9	
20416007	豊丘村 春日神社	200~299	スギ	305	25	
20416008	豊丘村 中戸中諏訪社	300 以上	ヒノキ	425	36	
20416009	豊丘村	200~299	エゾエノキ	370	18	
20416011	豊丘村泉龍院	300 以上	イチョウ	340	18	
20415001	喬木村机山 机山社	300 以上	アカマツ	330	20	夫婦松
20415002	喬木村 明神洞	300 以上	イチョウ	340	20	諏訪社
20415003	喬木村伊久間 諏訪社	不明	ヒノキ	370	23	
20415004	喬木村 小川	-	イチョウ	340	20	

表 4-2-1-71(2) 対象事業実施区域及びその周囲の巨樹・巨木林

番号	所在地	推定樹齢 (年)	樹種名	幹周 (cm)	樹高 (m)	通称・呼称
20403001	高森町 牛牧	300 以上	スギ	554	32	神社前大杉
20403002	高森町 上市田一本杉	300 以上	スギ	570	29	おとめ杉 一本杉
20403003	高森町 上市田	300 以上	スギ	308	25	
20403004	高森町 大島山	伝承 791	エドヒガン	369	13	地主桜
20403005	高森町 吉田	300 以上	スギ	327	25	
			スギ	477	27	
			スギ	487	28	
			スギ	368	-	
			スギ	336	26	
20403006	高森町 出原	300 以上	スギ	307	25	
			スギ	329	26	
			スギ	336	26	
			スギ	374	28	
			スギ	338	25	
20403007	高森町 山ノ寺	300 以上	スギ	339	27	山門の杉
			スギ	334	28	山門の杉
20403008	高森町 山ノ寺	300 以上	スギ	307	28	
20403010	高森町 山吹	300 以上	スギ	513	30	
			スギ	428	29	
			スギ	315	26	
			スギ	312	27	
			スギ	416	28	
20403011	高森町 山吹	300 以上	ツガ	337	24	
20403012	高森町 山吹	伝承 600	クロマツ	373	8	
20403013	高森町 山吹	300 以上	スギ	321	25	
20403014	高森町 山吹	300 以上	スギ	313	27	
			スギ	315	27	
20403015	高森町 高森南小学校	伝承 60	ソメイヨシノ	400	10	
20405001	上郷町飯沼 (飯田市上郷飯沼) 飯沼神社	不明	スギ	352	-	
20205001	飯田市 市役所内	100~199	ケヤキ	380	22	
20205002	飯田市 愛宕神社	伝承 740	エドヒガン	610	11	清秀桜
20205003	飯田市	300 以上	エゾエノキ	575	18	羽場の大楠
20205004	飯田市	300 以上	ヒイラギ	330	11	羽場の大柀
20205005	飯田市 正永寺原	伝承 600	イチョウ	650	30	正永寺原の 公孫樹
20205007	飯田市 一色神社	300 以上	スギ	490	40	一色の大杉
20205008	飯田市 合庁の庭	300 以上	エドヒガン	400	15	
20205009	飯田市 美術博物館	不明	ケヤキ	350	20	
20205010	飯田市 美術博物館	300 以上	エドヒガン	450	20	安富の桜
20423002	南木曾町 和合	不明	アラカシ	320	18	
20423003	南木曾町 和合	不明	イチョウ	325	15	
20423006	南木曾町 妻籠 和智野	不明	ツガ	317	20	
20423007	南木曾町 妻籠 光徳寺	不明	ヒノキ	318	20	
20423008	南木曾町 妻籠 光徳寺	200~299	エドヒガン	320	15	

注1. 表中の所在地名については、資料図書をそのまま記載するため、旧地名等が掲載されている場合がある。
なお、現在の地名を()内に記載した。

資料：「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書 甲信越・北陸版(新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県)」(平成3年、環境庁)

表 4-2-1-72 対象事業実施区域及びその周囲の特定植物群落

番号	名称	所在地	指定状況			保護の現状
			第2回	第3回	第5回	
200034	赤石山脈の自然植生	長谷村 ^{注1}	A・B・C・D	A・B・C・D	A・B・C・D	・当該地域の大半は、南アルプス国立公園内である。 ・黒河内国有林内のカラマツ林は、学術参考保護林となっている。
200090	風越山のベニマンサク群落	飯田市 上飯田	-	C	C	長野県天然記念物(昭和43年指定)
200091	風越山のブナ林	飯田市 上飯田	-	A・E	A・E	所有者「享保会」で保存林として残す。白山神社奥宮との関係は不明。地元「風越山を守る会」が発足。
200045	木曾山脈の自然植生	駒ヶ根市 ^{注2}	A・B・D	A・B・D	A・B・D	・当該地域の大半は、中央アルプス県立自然公園内である。 ・駒ヶ岳一帯は、県指定の天然記念物である。
200052	田立のヒノキ林	南木曾町	A	A	A	当該地域の一部は、中央アルプス県立自然公園内である。一般施業地では順次伐採が進行しているため風景林という形ではあるが保護手段がとられている田立の滝周辺及び湿原のある天然公園に限定した。
200053	南木曾岳のヒノキ林	南木曾町	A	A	A	-
200054	賤母山の原生林	山口村 ^{注3}	A	A	A	賤母山国有林内のヒノキ、モミ、ツガ林は、学術参考保護林になっている。 林道開発あり。

注1. 表中の所在地については資料図書をそのまま記載しており、合併前の旧地名等が掲載されている場合や代表の地名が掲載されている場合がある。「200034赤石山脈の自然植生」は広範囲に分布しており、大鹿村を含んでいる。

注2. 上記と同様、飯田市、南木曾町を含んでいる。

注3. 上記と同様、南木曾町を含んでいる。

注4. 指定状況の記号は、以下に示すとおりとする。

<選定基準>

- A: 原生林もしくはそれに近い自然林
- B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
- C: 比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる山地に見られる植物群落又は個体群
- D: 砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

資料: 「第2回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 甲信越版(新潟県・山梨県・長野)」
(昭和55年、環境庁)

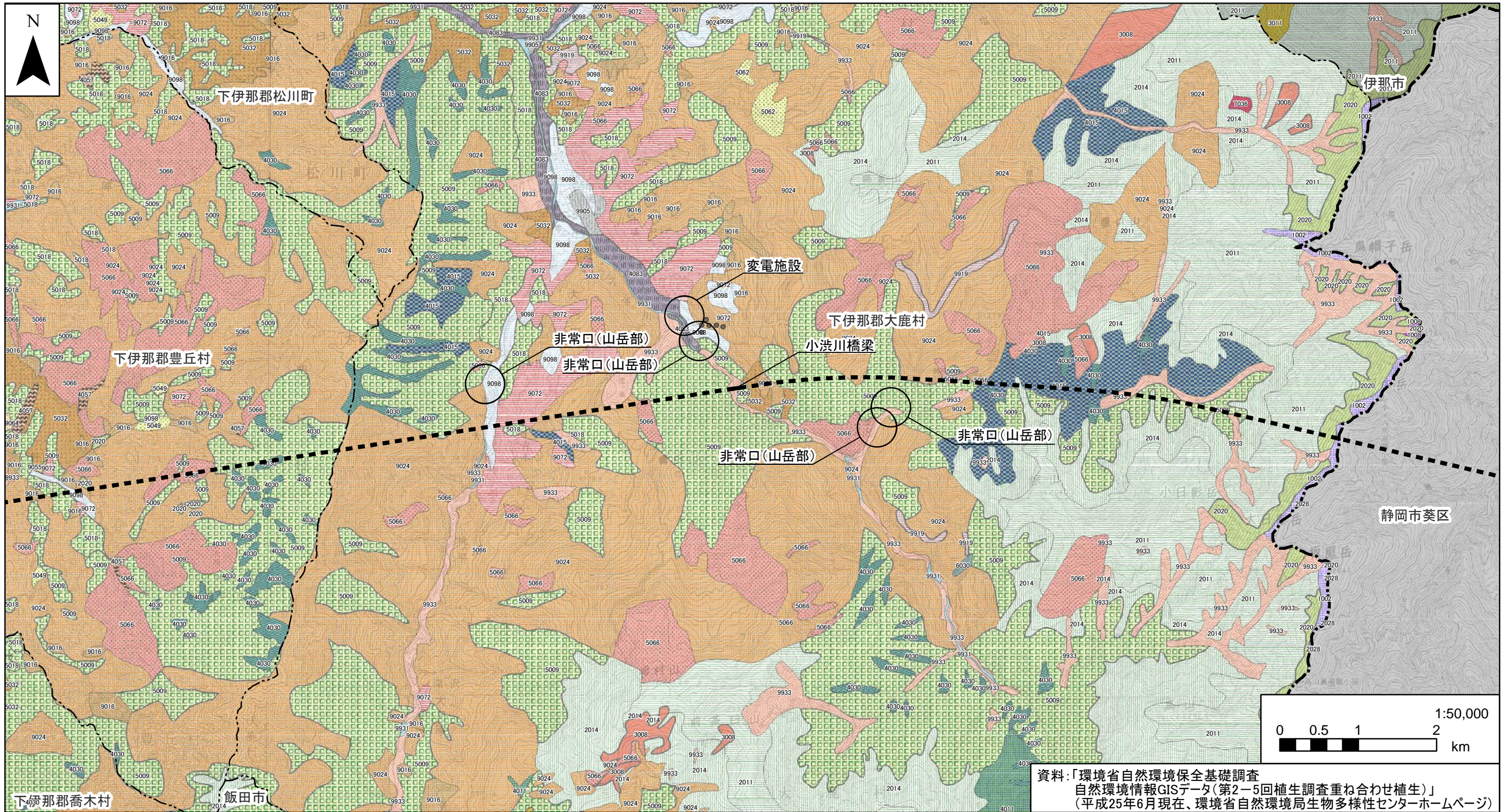
「第3回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 II 甲信越版
(新潟県・山梨県・長野県)」(昭和63年、環境庁)

「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)

3) 藻場・干潟・湿地の状況

対象事業実施区域を含む周辺市町村には、藻場、干潟の分布はない。

環境省は、生物多様性保全の観点から重要な湿地を500箇所選定している。「日本の重要湿地500」(環境省)によると、長野県内には8箇所選定されているが、対象事業実施区域を含む周辺市町村では選定されていない。



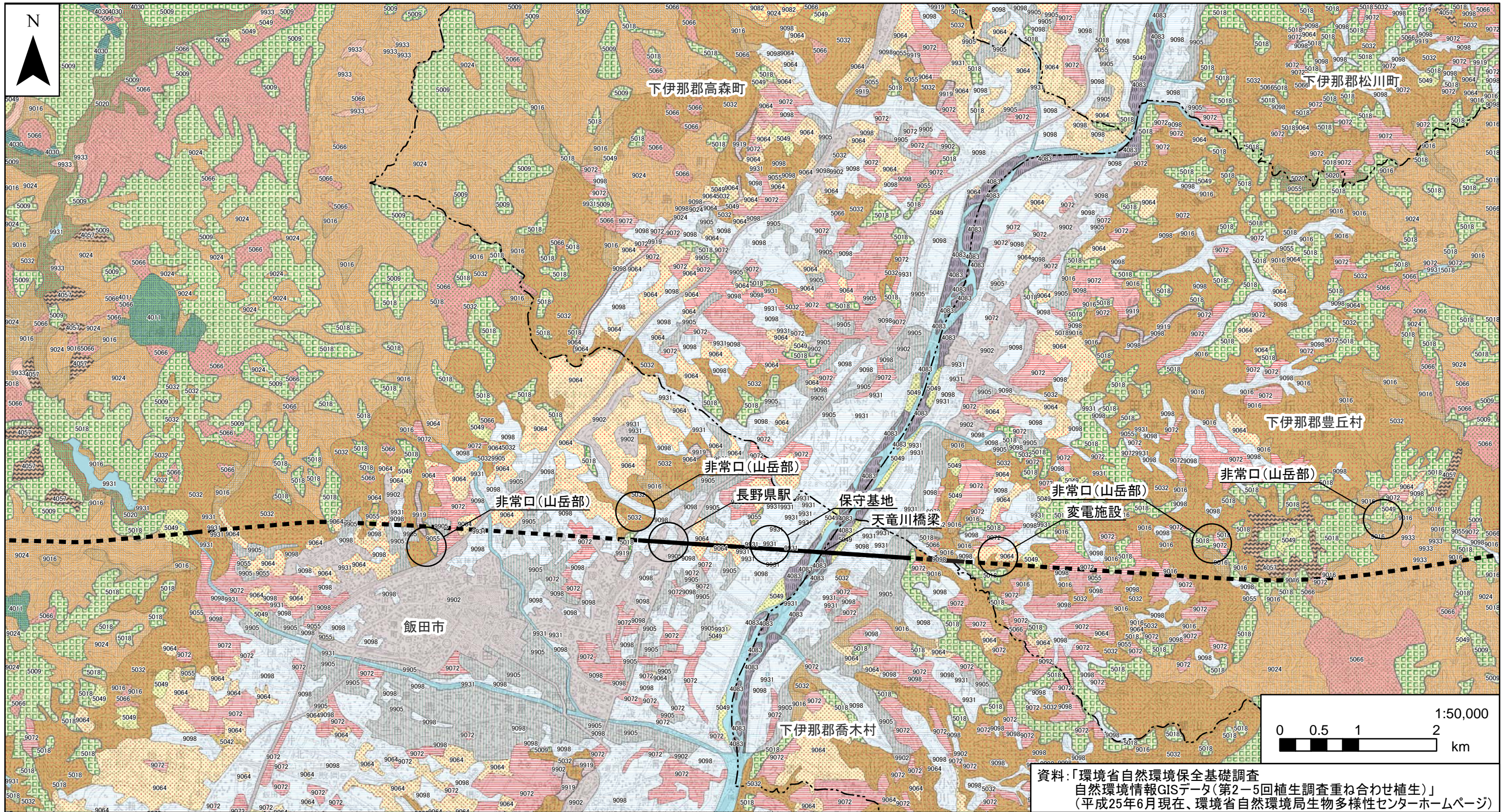
資料:「環境省自然環境保全基礎調査
 自然環境情報GISデータ(第2-5回植生調査重ね合わせ植生)」
 (平成25年6月現在、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)

凡例

- | | | | | |
|-----------------------|------------------------|-----------------|-------------------|-------------------|
| --- 計画路線(トンネル部) | — 計画路線(地上部) | ●●●● 工事用道路 | --- 県境 | - - - 市区町村境 |
| 1002 高山低木群落 | 2011 シラビソ-オオシラビソ群集 | 3011 ダケカンバ群落 | 5009 クリーズナラ群落 | 6030 ケヤキ群落 |
| 1008 高山ハイデ及び風衝草原 | 2014 コメツガ群落 | 4011 スズタケブナ群団 | 5018 カスミザクラ-コナラ群落 | 7036 伐跡群落 |
| 1011 コメバツガザクラ-ミネズオウ群集 | 2018 カラマツ群落 | 4015 ヤマボウシ-ブナ群集 | 5032 アカマツ群落 | 9016 スギ・ヒノキ・サワラ植林 |
| 1013 コマクサイワツメクサクラス | 2020 ミドリユキザサ-ダケカンバ群団 | 4030 ツガー-コナラ群集 | 5049 ススキ群団 | 9024 カラマツ植林 |
| 2005 シラビソ-トウヒ群団 | 2028 シナノキンバイ-ヤマキンボウゲ群団 | 4057 アカマツ群落 | 5062 シバ群団 | 9055 竹林 |
| | 3008 伐跡群落 | 4083 ヤナギ低木群落 | 5066 伐跡群落 | 9064 落葉果樹園 |
| | | | | 9072 畑地雑草群落 |
| | | | | 9098 水田雑草群落 |
| | | | | 9905 緑の多い住宅地 |
| | | | | 9919 造成地 |
| | | | | 9931 開放水域 |
| | | | | 9933 自然裸地 |

注1. 他の図面と表示範囲が重なる箇所については、調査地点等を重複して記載しているものもある。

図4-2-1-21(1) 現存植生図



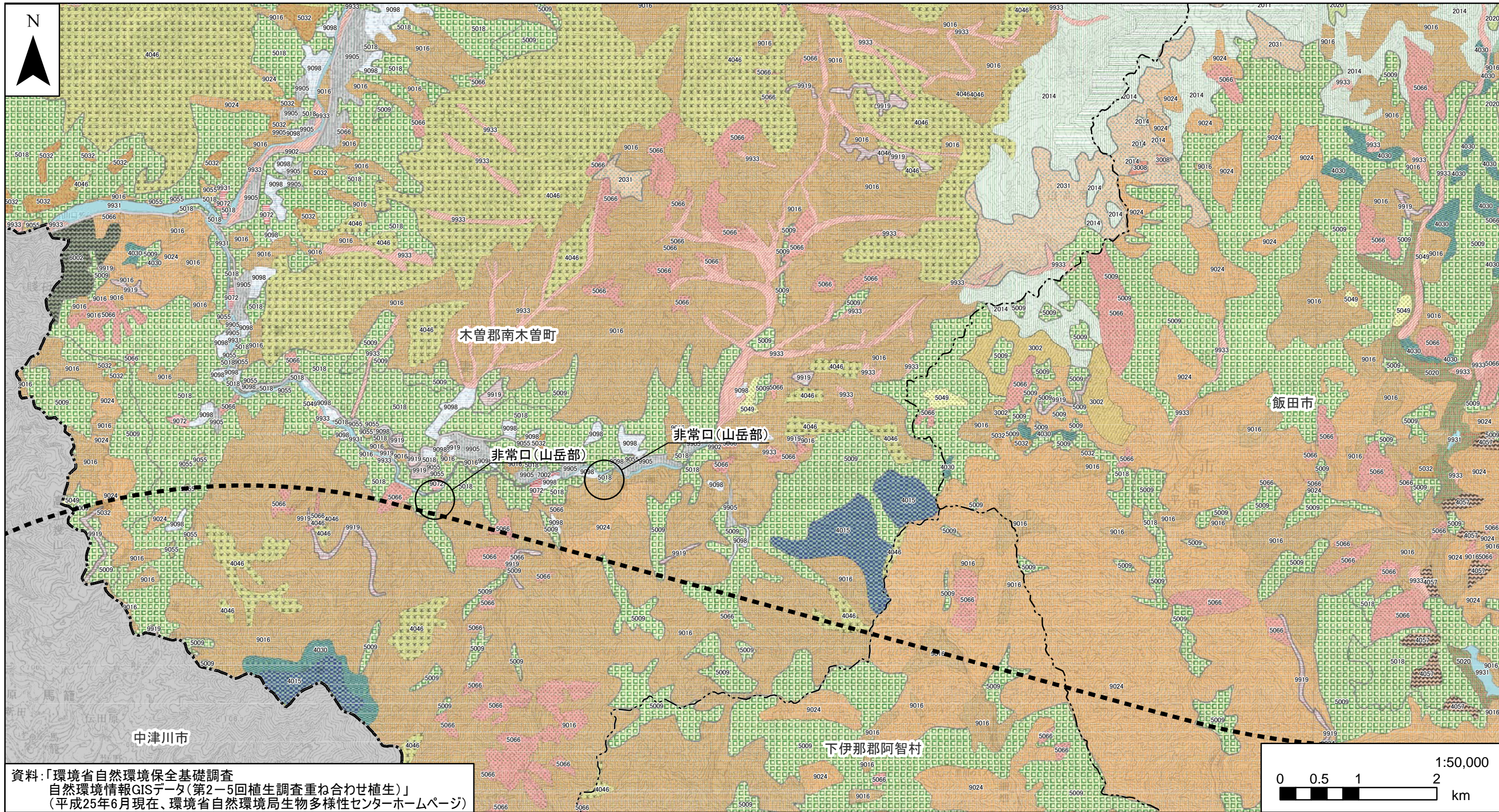
凡例

--- 計画路線（トンネル部）	—— 計画路線（地上部）	●●●● 工事用道路	- - - 県境	- - - 市区町村境
2020 ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	4083 ヤナギ低木群落	5042 ササ草原	9055 竹林	9902 市街地
4011 スズタケ-ブナ群団	5009 クリーミズナラ群落	5049 ススキ群団	9064 落葉果樹園	9905 緑の多い住宅地
4030 ツガ-コナスガ群集	5018 カスミザクラ-コナラ群落	5066 伐跡群落	9072 畑地雑草群落	9919 造成地
4057 アカマツ群落	5020 アカシデ-イヌシデ群落	9016 スギ-ヒノキ-サワラ植林	9082 牧草地	9931 開放水域
	5032 アカマツ群落	9024 カラマツ植林	9098 水田雑草群落	9933 自然裸地

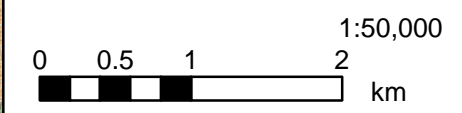
資料:「環境省自然環境保全基礎調査
自然環境情報GISデータ(第2-5回植生調査重ね合わせ植生)」
(平成25年6月現在、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)

注1. 他の図面と表示範囲が重なる箇所については、
調査地点等を重複して記載しているものもある。

図4-2-1-21(2) 現存植生図

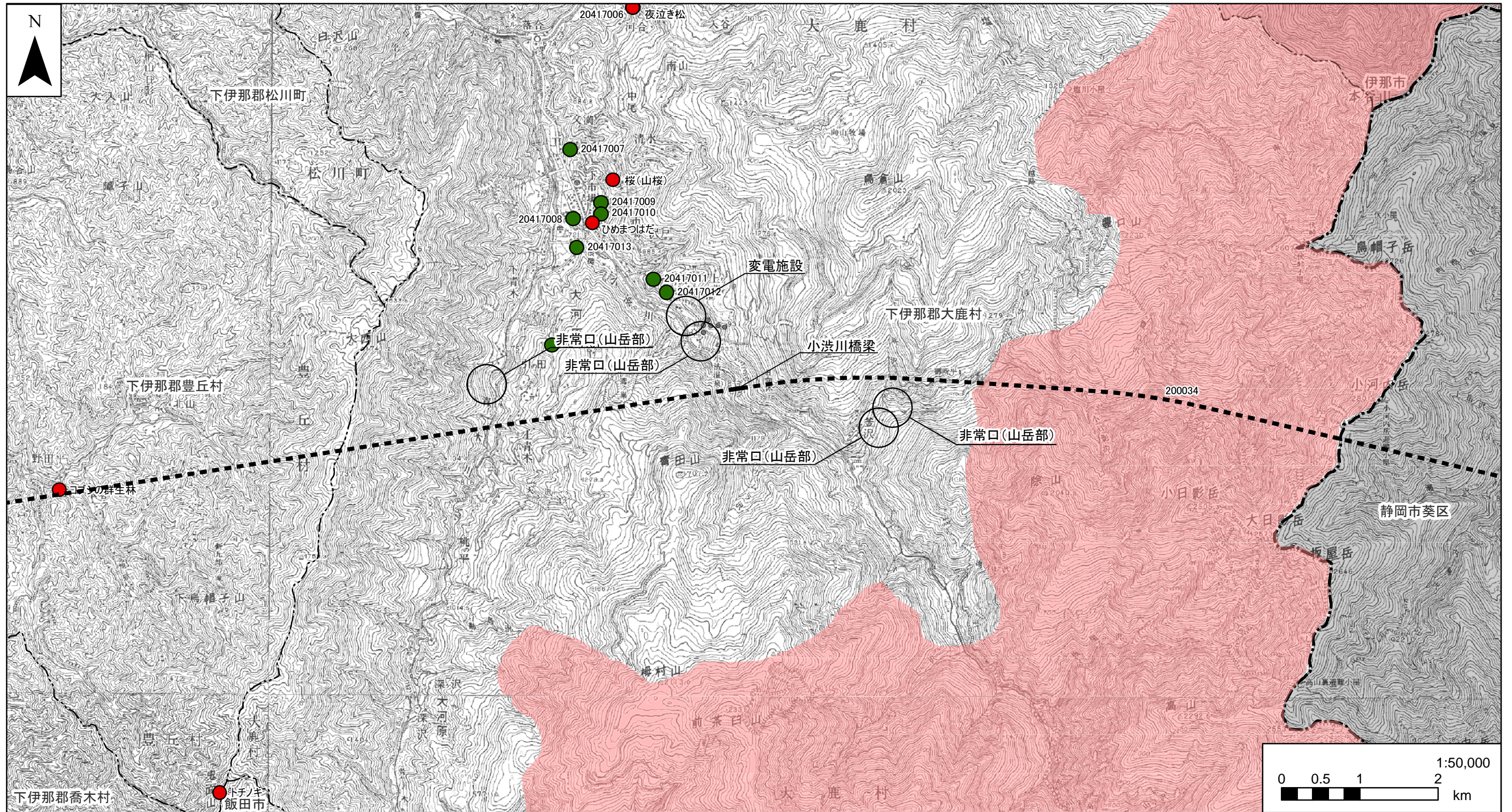


資料:「環境省自然環境保全基礎調査
自然環境情報GISデータ(第2-5回植生調査重ね合わせ植生)」
(平成25年6月現在、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)



凡例		注1. 他の図面と表示範囲が重なる箇所については、調査地点等を重複して記載しているものもある。	
--- 計画路線 (トンネル部)	— 計画路線 (地上部)	●●●● 工事用道路	--- 県境
---	---	---	---
2011 シラビソ・オシラビソ群集	3008 伐跡群落	4060 ジュウモンジシダー・サワグルミ群集	5020 アカシデーイヌシデ群落
2014 コメツガ群落	4011 スズタケ・ブナ群団	4093 自然低木群落	5032 アカマツ群落
2020 ミドリユキザサ・ダケカンバ群団	4015 ヤマボウシ・ブナ群集	4105 自然草原	5049 ススキ群団
2031 ササ自然草原	4030 ツガ・コナスゲ群集	5002 ブナ・ミズナラ群落	5066 伐跡群落
3002 ササ群落	4046 ヒノキ群落	5009 クリーミズナラ群落	6002 モミ・シキミ群集
	4057 アカマツ群落	5018 カスミザクラ・コナラ群落	7002 コナラ群落
			7089 モチツツジ・アカマツ群集
			9016 スギ・ヒノキ・サワラ植林
			9024 カラマツ植林
			9055 竹林
			9064 落葉果樹園
			9072 畑地雑草群落
			9098 水田雑草群落
			9902 市街地
			9905 緑の多い住宅地
			9919 造成地
			9931 開放水域
			9933 自然裸地

図4-2-1-21 (3) 現存植生図



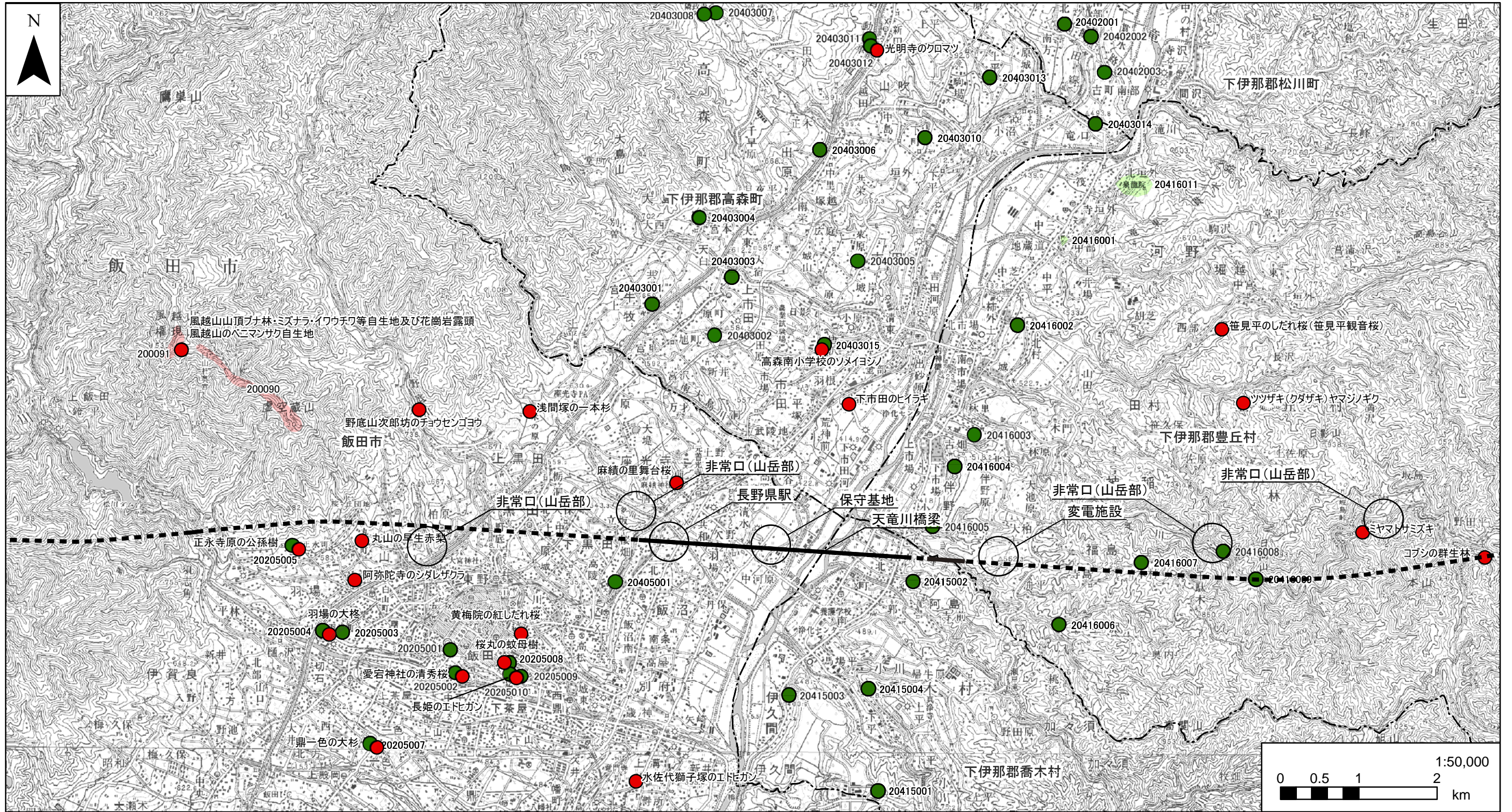
凡例

- 計画路線 (トンネル部) — 計画路線 (地上部) ●●●● 工事用道路 - - - 県境 - - - 市区町村境
- 特定植物群落 生育地域
- 巨樹・巨木 分布地域
- 巨樹・巨木 分布地点
- 天然記念物(植物)

注1. 他の図面と表示範囲が重なる箇所については、調査地点等を重複して記載しているものもある。

資料:「環境省自然環境保全基礎調査
 自然環境情報GISデータ(第4回巨樹・巨木調査(分布地域、分布地点)
 及び第2回、3回、5回特定植物群落調査(生息地域、生息地))」
 (平成25年6月現在、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)
 「文化財情報」(平成25年6月現在、長野県教育委員会ホームページ)
 「信州の文化財」(平成25年6月現在、(財)八十二文化財団ホームページ)
 「信州Live on」(平成25年6月現在、信濃毎日新聞社メディア局ホームページ)

図4-2-1-22(1) 重要な植物等の分布図



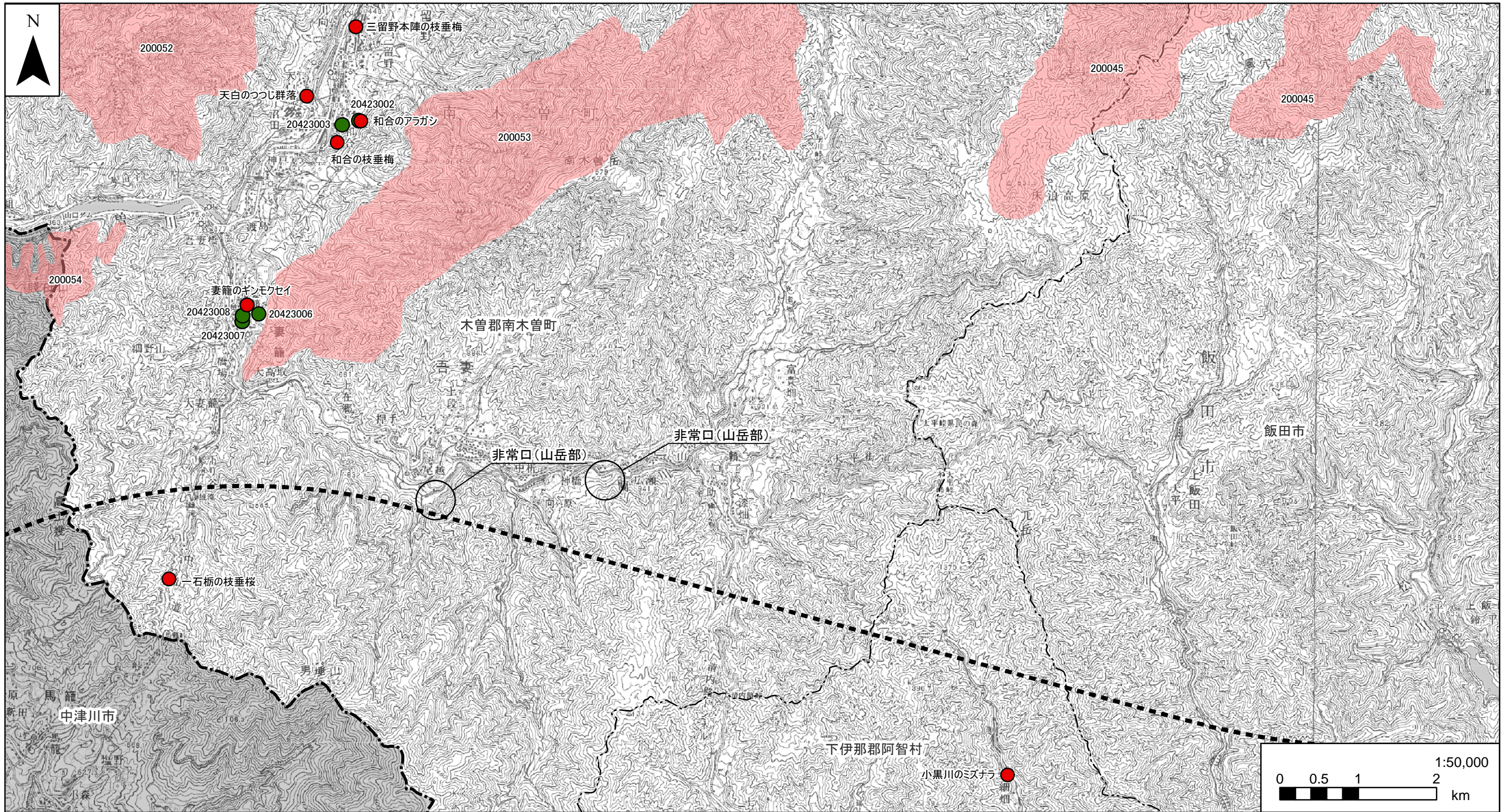
凡例

- 計画路線（トンネル部） — 計画路線（地上部） ●●●● 工事用道路 - - - 県境 - - - 市区町村境
- 特定植物群落 生育地域
- 巨樹・巨木 分布地域
- 巨樹・巨木 分布地点
- 天然記念物(植物)

注1. 他の図面と表示範囲が重なる箇所については、調査地点等を重複して記載しているものもある。

資料:「環境省自然環境保全基礎調査
 自然環境情報GISデータ(第4回巨樹・巨木調査(分布地域、分布地点)及び第2回、3回、5回特定植物群落調査(生息地域、生息地))」
 (平成25年6月現在、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)
 「文化財情報」(平成25年6月現在、長野県教育委員会ホームページ)
 「信州の文化財」(平成25年6月現在、(財)八十二文化財団ホームページ)
 「信州Live on」(平成25年6月現在、信濃毎日新聞社メディア局ホームページ)

図4-2-1-22(2) 重要な植物等の分布図



凡例

- 計画路線（トンネル部） — 計画路線（地上部） ●●●● 工事用道路 - - - 県境 - - - 市区町村境
- 特定植物群落 生育地域
- 巨樹・巨木 分布地域
- 巨樹・巨木 分布地点
- 天然記念物(植物)

注1. 他の図面と表示範囲が重なる箇所については、調査地点等を重複して記載しているものもある。

資料:「環境省自然環境保全基礎調査
 自然環境情報GISデータ(第4回巨樹・巨木調査(分布地域、分布地点)
 及び第2回、3回、5回特定植物群落調査(生息地域、生息地))」
 (平成25年6月現在、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)
 「文化財情報」(平成25年6月現在、長野県教育委員会ホームページ)
 「信州の文化財」(平成25年6月現在、(財)八十二文化財団ホームページ)
 「信州Live on」(平成25年6月現在、信濃毎日新聞社メディア局ホームページ)



図4-2-1-22(3) 重要な植物等の分布図

4) 生態系

ア. 生態系の状況

「生物多様性保全のための国土区分（試案）」（平成9年、環境庁）によると、対象事業実施区域及びその周囲は本州中北部太平洋側区域に属する。本州中北部太平洋側区域は冷温帯に属し、年降水量は中位となっている。本州の中では寒冷であるが、冬期の積雪は少なく、イヌブナなどの夏緑樹林が発達している。荒川源流域のブナ・イヌブナ林や、赤石山地のブナ林などは、この区域のまとまった夏緑樹林である。本州、四国、九州の他地域と共通して動物相の固有性が高く、イノシシやニホンジカが分布する。

対象事業実施区域及びその周囲の生態系は、地形・地質、植生等から総合的に判断すると、①赤石山地や恵那山地を含む山地帯にあたる地域、②天竜川周辺から山地帯の間に位置する伊那山地、富草山地、伊那盆地の一部にあたる地域、③天竜川を含む伊那盆地にあたる地域の3地域に区分することができる。なお、各地域の生態系の模式図は、図4-2-1-23に示すとおりである。

- ①赤石山地や恵那山地を含む山地帯にあたる地域は、大～小起伏山地にあたる山地の森林及び一部溪流によって構成される山地の生態系が成立している。この地域で成立する主な植生は「クリーミズナラ群落」、「スギ・ヒノキ・サワラ植林」、「カラマツ植林」でほとんどが樹林環境で構成されている。したがって、この地域に生育する植物種はミズナラ等の落葉広葉樹、スギ、ヒノキ、サワラ、カラマツの針葉樹などの木本植物が多く、その林床にササ類が生育している。これらを基盤環境として生息する特徴的な動物種としては、カモシカ、ノウサギ、ニホンリス等の哺乳類、オオルリ、カッコウ等の鳥類、カブトムシ、ギフチョウ、オオムラサキ等の昆虫類が考えられる。これらを餌とする生態系の上位性の種として、ツキノワグマ、キツネ等の哺乳類、イヌワシ、クマタカ等の猛禽類が考えられる。また、溪流ではアマゴ、カジカ等の魚類、サワガニ、カゲロウ類、トビケラ類等の水生生物が生息し、これらの捕食者として、ヤマセミ、カワガラス等が考えられる。
- ②天竜川周辺から山地帯の間に位置する伊那山地、富草山地、伊那盆地の一部にあたる地域は、丘陵地の森林、小河川、果樹園や水田、畑等の耕作地で構成される里山の生態系が成立している。この地域で成立する主な植生は「アカマツ群落」、「カスミザクラ・コナラ群落」等の自然環境と、「落葉果樹園」、「水田雑草群落」、「畑地雑草群落」、「緑の多い住宅地」等の人間の生活の場で構成されている。したがって、この地域に生育する植物種は、アカマツ等の針葉樹、コナラ等の落葉広葉樹、リンゴ等の園芸種の木本植物、ヤナギタデ、ミゾソバ、セリ、メヒシバ、ヨモギ、ナズナ等の草本植物と様々である。これらを基盤環境として生息する特徴的な動物種としては、モグラ類、ネズミ類等の哺乳類、キビタキ、クロツグミ、ヒヨドリ、ハシボソガラス等の鳥類、アオダイショウ、マムシ等の爬虫類、モリアオガエル、トノサマガエル等の両生類、ノコギリクワガタ、モンシロチョウ、キアゲハ等の昆虫類が考えられる。これらを餌とする生態系の上位性の種として、タヌキ、テン等の哺乳類、オオタカ、ノスリ等の猛禽類が考えられる。
- ③天竜川を含む伊那盆地にあたる地域は、天竜川中流部を主体とした河川の生態系が成立している。この地域で成立する主な植生は「ヤナギ低木群落」等の樹林環境、「ススキ群団」等の草地や不安定な河川植生、「開放水域」で構成されている。したがって、この地域に生育

する植物種は、ヤナギ類等の木本植物、ススキ、ツルヨシ、ヨシ等の草本植物が多いと考えられる。これらを基盤環境として生息する特徴的な動物種としては、キセキレイ、オオヨシキリ等の鳥類、カゲロウ類、トビケラ類等の水生昆虫、アユ、ウグイ、オイカワ等の魚類が考えられる。また、これらを餌とする生態系の上位性の種として、イタチ等の哺乳類、アオサギ、コサギ等の鳥類が考えられる。

① 赤石山地や恵那山地を含む山地帯にあたる地域

	ツキノワグマ、キツネ、イヌワシ、クマタカ等	
	ヤマセミ、カワガラス等	カモシカ、ノウサギ、ニホンリス、オオルリ、カッコウ、カブトムシ、ギフチョウ、オオムラサキ等
	アマゴ、カジカ、サワガニ、カゲロウ類、トビケラ類等	
基盤環境	開放水面(溪流)	クリーミズナラ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、カラマツ植林等の樹林環境
生態系区分	山地の生態系	

② 天竜川周辺から山地帯の間に位置する伊那山地、富草山地、伊那盆地の一部にあたる地域

	タヌキ、テン、オオタカ、ノスリ等			
	モグラ類、ネズミ類、キビタキ、クロツグミ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、アオダイショウ、マムシ、モリアオガエル、トノサマガエル、ノギリクワガタ、モンシロチョウ、キアゲハ等			
基盤環境	アカマツ群落、カスミザクラ・コナラ群落等の樹林環境	落葉果樹園、水田雑草群落、畑地雑草群落等の耕作地環境	緑の多い住宅地	小河川
生態系区分	里山の生態系			

③ 天竜川を含む伊那盆地にあたる地域

	イタチ、アオサギ、コサギ等	
	キセキレイ、オオヨシキリ、カゲロウ類、トビケラ類、アユ、ウグイ、オイカワ等	
基盤環境	開放水面(河川)	河川植生
生態系区分	河川の生態系	

図 4-2-1-23 対象事業実施区域及びその周囲の生態系の模式図